

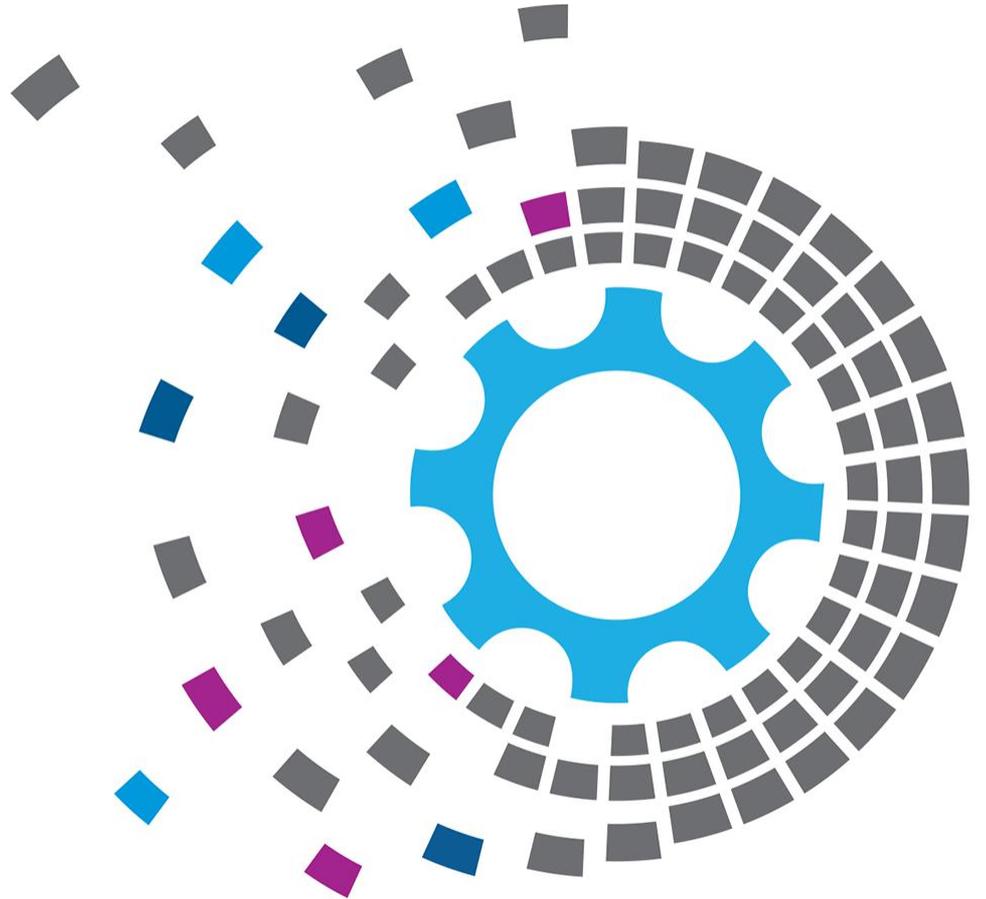
第4章 基本的なアダプタの 使い方その1



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.1

データマッパー



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.1 データマッパー

- Magic xpi の代表的なコンポーネントであるデータマッパーは、データを送り元から送り先へマッピング、連携することができます。
- 連携することのできる送り元/送り先として以下の種類があります。

	送り元	送り先
XML ※1	○	○
JSON ※1	○	○
データベース	SELECT	INSERT, UPDATE, DELETE, UPSERT ※2
フラットファイル(CSV, 固定長ファイル等)	○	○
変数	○	○
ODS	○	○
UDS	○	○
フロー呼び出し(Call Flow)	×	○
テンプレートファイル ※3	×	○

※1
XML、JSONを使用する
場合はスキーマファイルが必要

※2
UPSERTはMSSQL、Oracle
DB2、DB2/400、MySQL、
PostgreSQLで使用可能。
データベーススキーマプロパティ
「UPSERT」を「Yes」に設定

※3
HTMLやテキストに
xpi独自のタグを埋め込んだ
テンプレートファイルを用意し、
タグ部分に動的に値を設定



4.1 データマッパー

【データマッパーの設定例】

送り元: Flat File(CSV)

送り先: DataBase

送り元: Flat CSV

Field	Type
Record	(1)
Name1	(1)
Name2	(1)
Name3	(1)
Name4	(1)
Name5	(1)
Name6	(1)
Name7	(1)
Name8	(1)
Name9	(1)

送り先: 商品マスタ

Field	Type
dbo.MSSQL商品マスター	(1)
MSSQL商品マスター-商品番号	(1)
MSSQL商品マスター-商品名	(1)
MSSQL商品マスター-販売価格	(1)
MSSQL商品マスター-在庫数量	(1)
MSSQL商品マスター-仕入先コード	(1)
MSSQL商品マスター-作成日	(1)
MSSQL商品マスター-作成時刻	(1)
MSSQL商品マスター-更新日	(1)
MSSQL商品マスター-更新時刻	(1)

送り先側の項目ごとに関数による演算が可能



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.2

ディレクトリ スキャナ

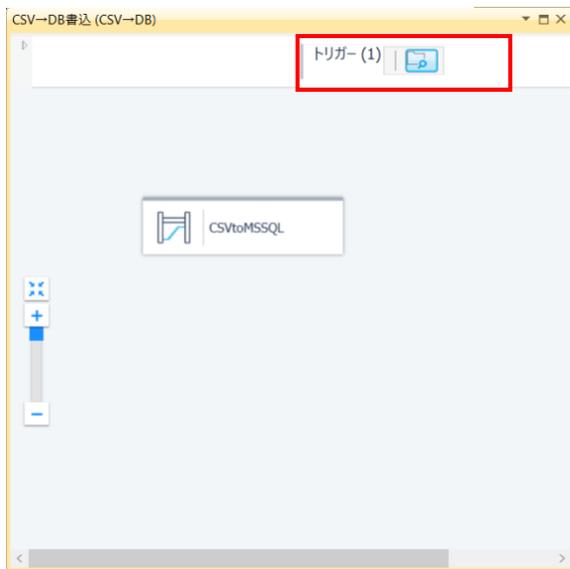


OUTPERFORM THE FUTURE™

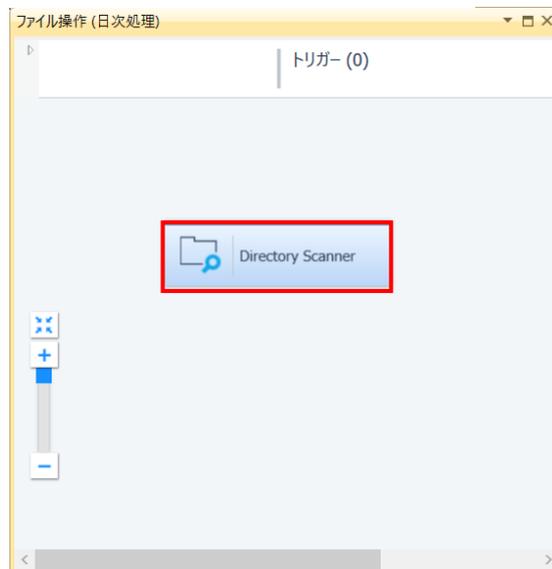
4.2 ディレクトリスキャナ

- ・ ディレクトリスキャナを使用すると、ディレクトリを監視・スキャンすることができます。
- ・ トリガーエリアに配置すると、ファイル出力をトリガーとしてフローを起動できます。
- ・ フローエリアに配置すると、ファイルの移動、削除、名前変更ができます。

トリガーエリアに配置



フローエリアに配置



4.3

CSVを監視し DBに取り込む

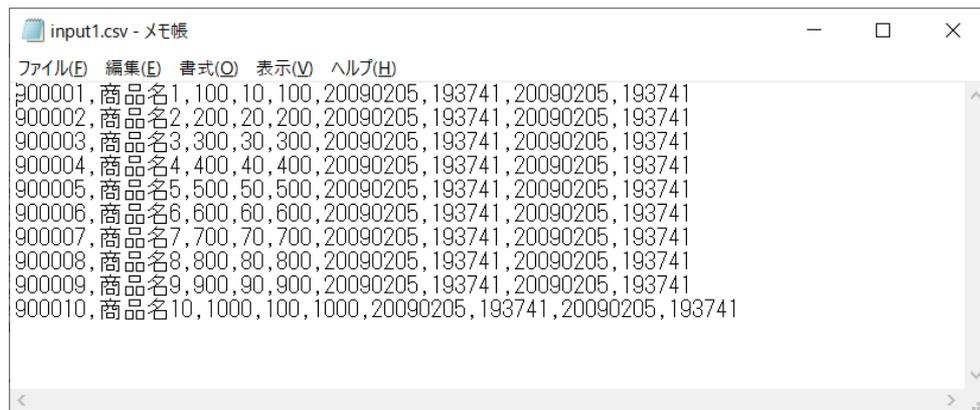


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【仕様】

- ・ フォルダにCSVファイルが出力されるのを監視します。
- ・ ファイルが出力されたら、ファイルのデータを読み取り、ファイルは他のフォルダに移動します。
- ・ データマッパーを使用して、読み取ったデータをDB上の商品マスタに書き込みます。
- ・ CSVおよびDB上の商品マスタのレイアウトは下記の通りです。



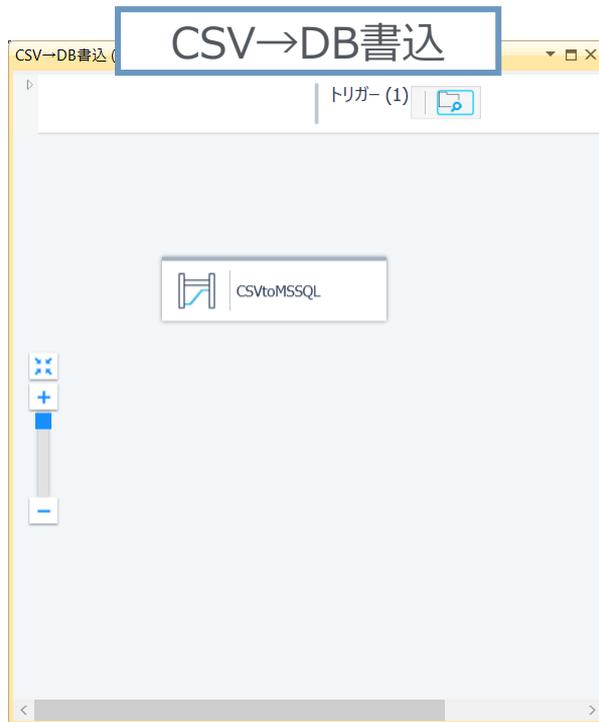
The screenshot shows a Notepad window titled 'input1.csv - メモ帳'. The text inside is a CSV file with 10 rows of data. Each row contains 10 columns of values: a 5-digit product ID, a 2-digit product name, and two sets of 3-digit values. The data is as follows:

商品番号	商品名	販売価格	在庫数量	仕入先コード	作成日	作成時刻	更新日	更新時刻
900001	商品名1	100,10,100	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900002	商品名2	200,20,200	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900003	商品名3	300,30,300	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900004	商品名4	400,40,400	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900005	商品名5	500,50,500	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900006	商品名6	600,60,600	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900007	商品名7	700,70,700	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900008	商品名8	800,80,800	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900009	商品名9	900,90,900	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				
900010	商品名10	1000,100,1000	20090205,193741,20090205,193741	20090205,193741				

列名	データ型
商品番号	float
商品名	char(255)
販売価格	numeric(17,5)
在庫数量	float
仕入先コード	float
作成日	datetime
作成時刻	char(6)
更新日	datetime
更新時刻	char(6)

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【フロー完成イメージ】

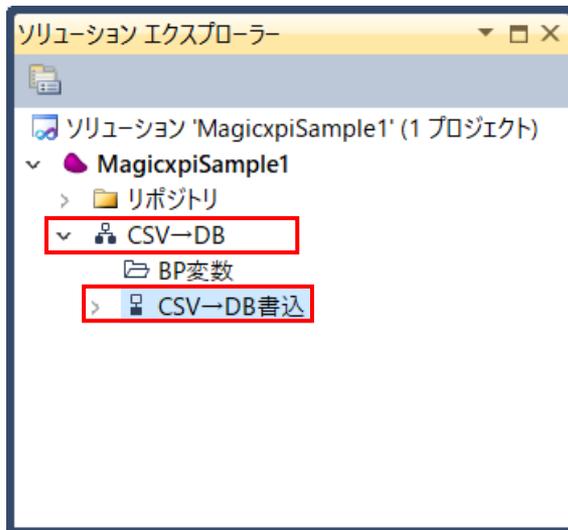


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【Magic xpi スタジオの起動】

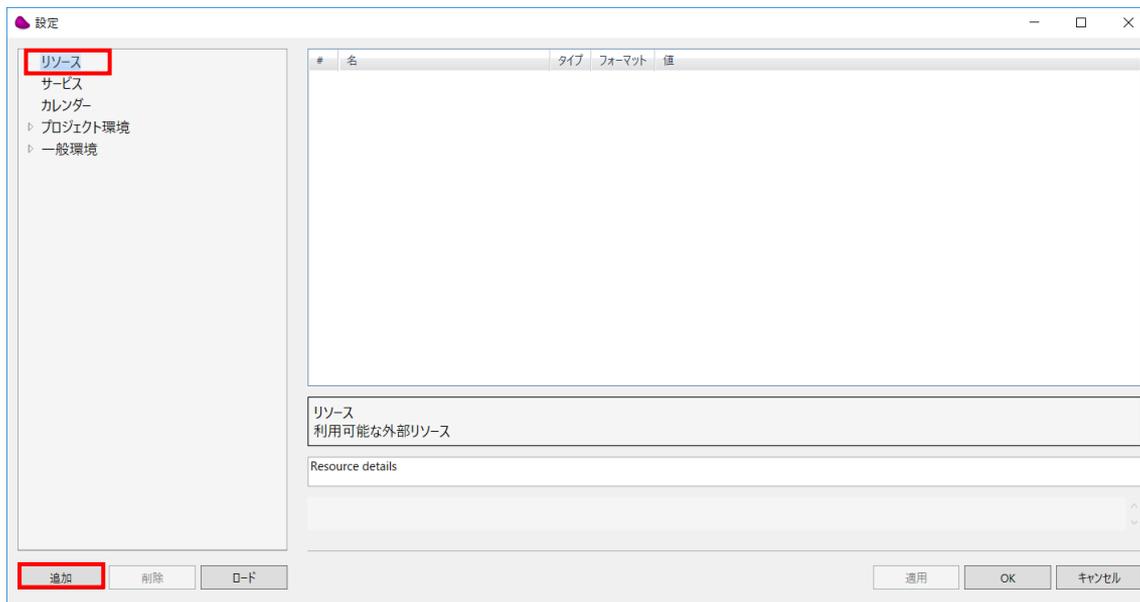
- ・ 「ファイル」メニューから「開く」を選択し「MagicxpiSample1.sln」を開きます。
- ・ ビジネスプロセスを右クリックし「CSV→DB」に名前変更します。
- ・ フローを右クリックし「CSV→DB書込」に名前変更します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【MSSQLデータベースリソースの登録】

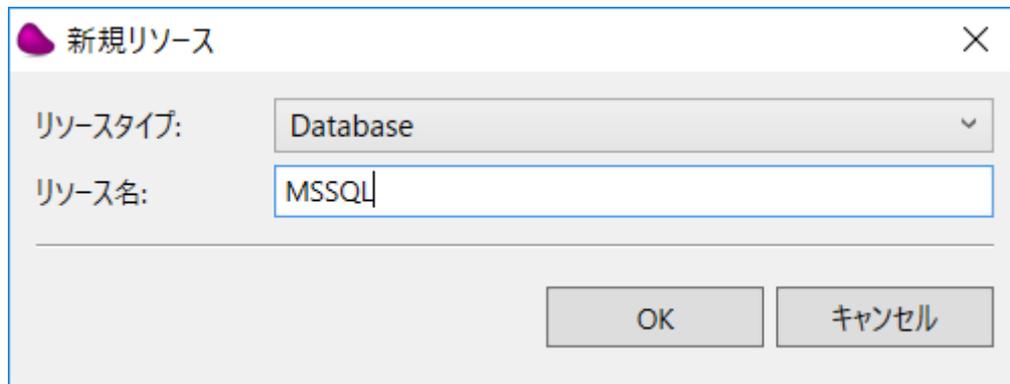
- ・ メニュー > プロジェクト > 設定をクリックします。
- ・ 左ペインで「リソース」が選択されている状態で「追加」ボタンを押します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- ・ リソースタイプ「Database」を選択します。
- ・ リソース名「MSSQL」と入力し、「OK」ボタンを押します。

※禁則文字(@、&、% 等)は使用できません。



新規リソース

リソースタイプ: Database

リソース名: MSSQL

OK キャンセル



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- ・ 右ペインにデータベース接続のための詳細情報を入力します。
- ・ 入力が終わったら画面下部の「検証」ボタンを押します。

#	名	タイプ	フォーマット	値
1	DBMS	文字	30	Microsoft SQL Server...
2	データベース名	文字	30	iBOLTTest
3	サーバ	文字	30	.\SQLEXPRESS
4	ユーザ	文字	30	sa
5	パスワード	文字	30	****
6	開始オーナー	文字	30	

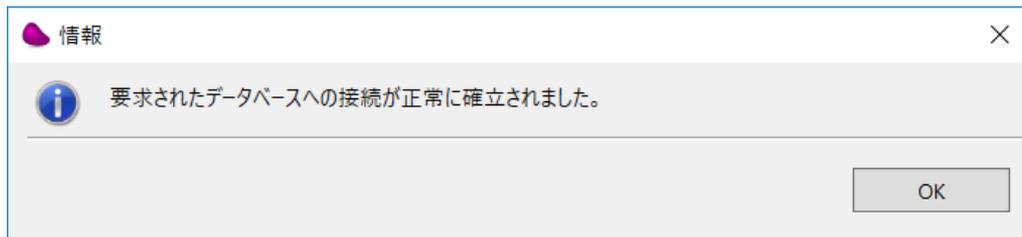
名	値
DBMS	Microsoft SQL Serverを選択します
データベース名	iBOLTTest
サーバ	.\SQLEXPRESS
ユーザ	sa
パスワード	mgtr

※ご利用の環境にあわせて設定します。

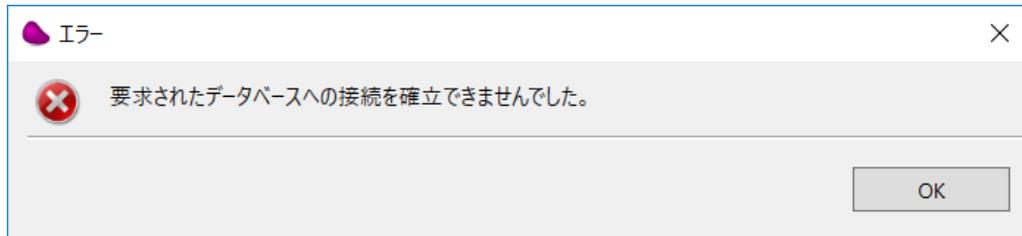
4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- ・ データベースへ接続できた場合は、設定を保存します。
- ・ データベースへ接続できなかった場合は、設定を修正してください。

接続OKの場合



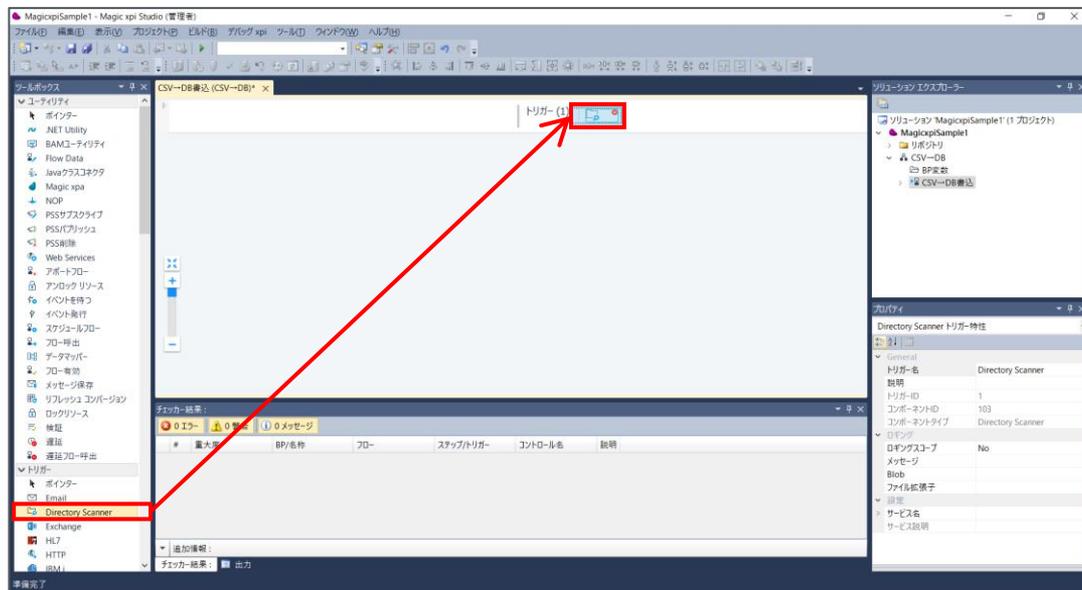
接続NGの場合



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

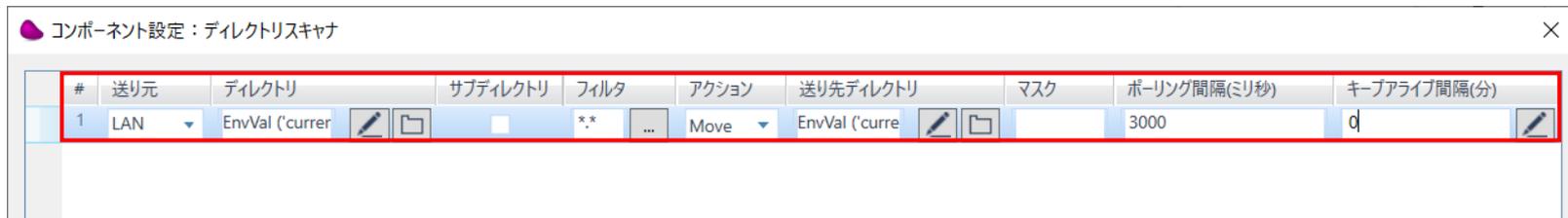
【ディレクトリスキャナの設定】

- ・ 「CSV→DB書込」フローをダブルクリックし、フローエディタを開きます。
- ・ ツールボックスから「DirectoryScanner」をトリガーエリアにDrag&Dropします。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 「DirectoryScanner」をダブルクリックして設定画面を開き、下記のように設定します。



[新規]ボタンで
行を追加します

新規

削除

ログと戻値詳細

送り元	LAN
ディレクトリ ※	EnvVal('currentprojectdir') & 'FileIn'
フィルタ	*.*
アクション	Move
送り先ディレクトリ ※	EnvVal('currentprojectdir') & 'FileIn¥done'
ポーリング間隔(ミリ秒)	3000

※「鉛筆」アイコンをクリックし、式アシスター画面で式を入力します(次頁)。

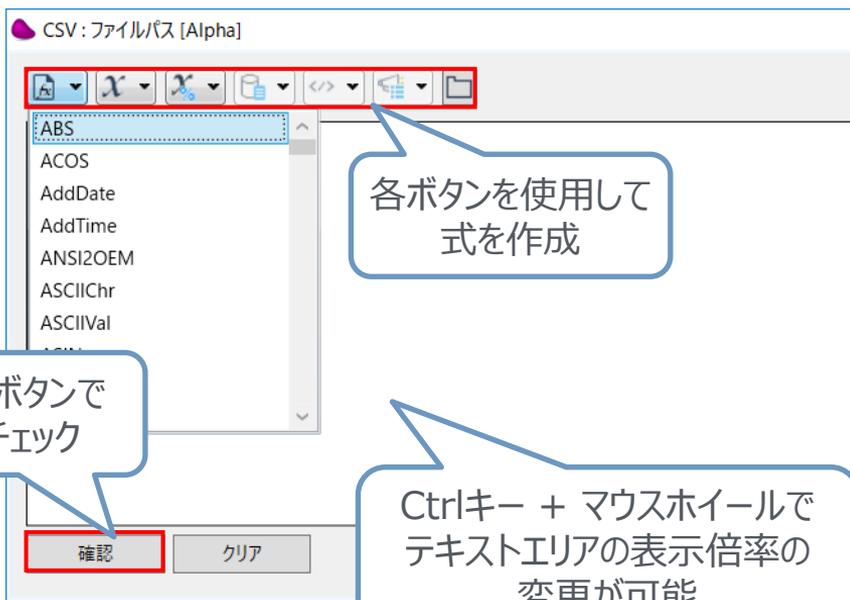


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【式アシスター】

- 「鉛筆」アイコンをクリックすると「式アシスター」画面が表示されます。
- 各ボタンによる入力補助機能を使用して式を作成し、文法チェックを行うことができます。



各ボタンを使用して式を作成

「確認」ボタンで文法チェック

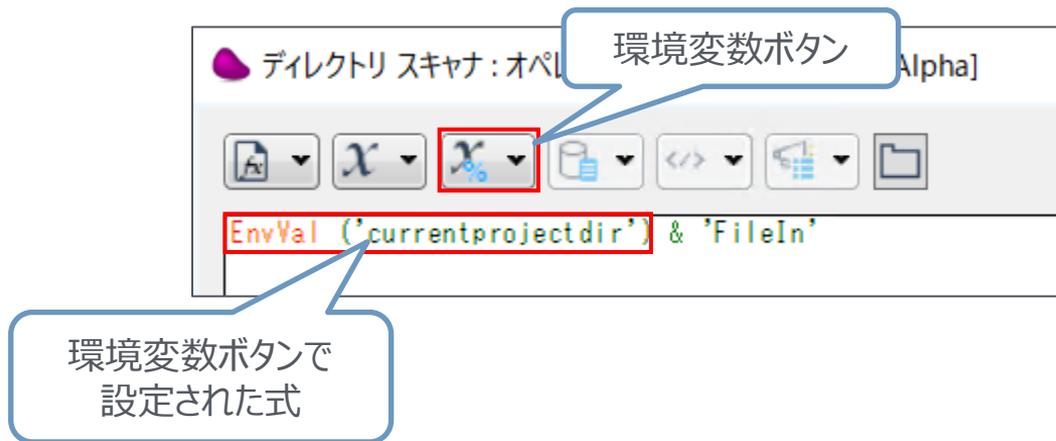
Ctrlキー + マウスホイールでテキストエリアの表示倍率の変更が可能

	関数ボタン 使用できる関数の一覧表示
	変数ボタン 使用できる変数の一覧表示
	環境変数ボタン 使用できる環境変数の一覧表示
	ODSボタン 使用できるODSの一覧表示
	ソースノードボタン 使用できる送り元ノードの一覧表示
	PSSTピックボタン 使用できるPSSTピックの一覧表示
	ファイル選択ダイアログ ファイル選択ダイアログの表示

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【式アシスターの環境変数ボタン】

- ・ 式アシスター画面の環境変数ボタンを押し「currentprojectdir」をダブルクリックします。
- ・ 環境変数の値を取得するEnvVal関数を使用した式が設定されます。
- ・ 環境変数「currentprojectdir」の値は、現在のプロジェクトフォルダのパスです。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

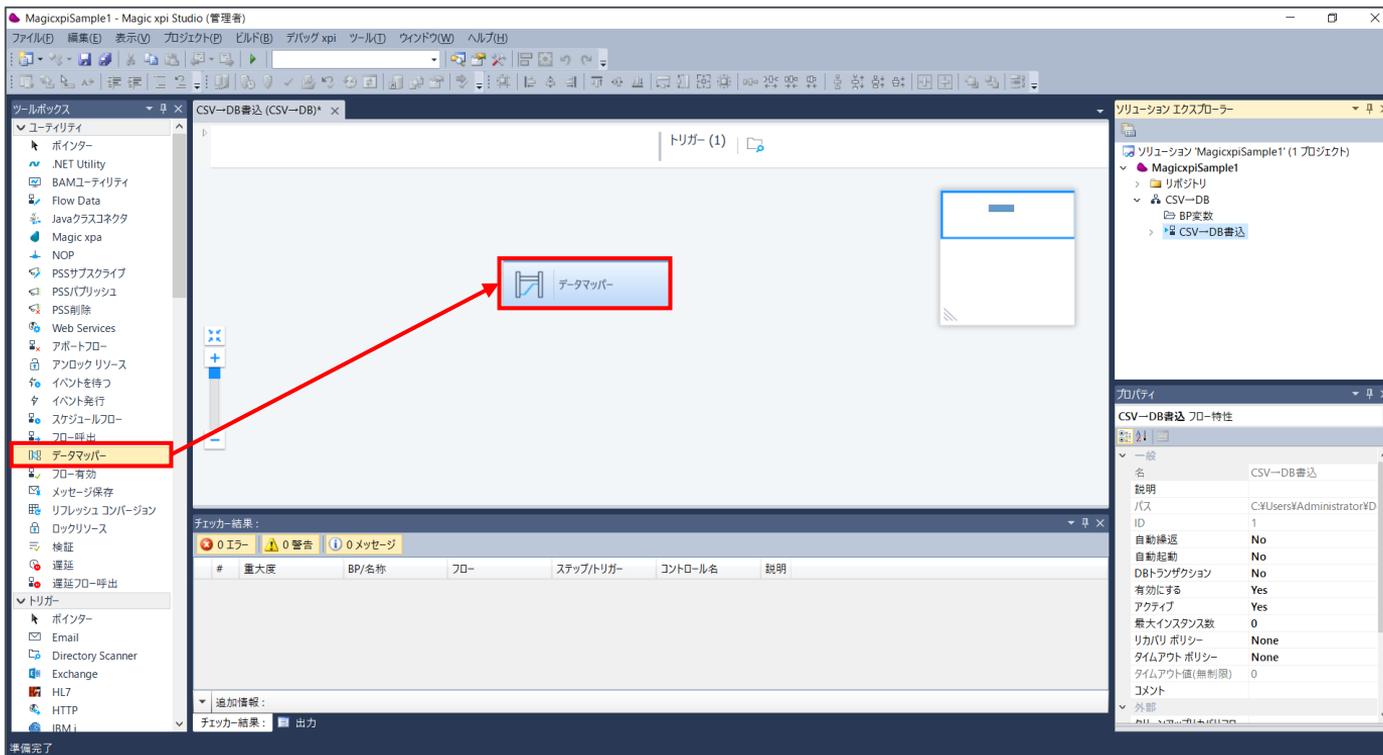
- 「ログと戻値詳細」ボタンをクリックして、ログと戻値詳細画面を表示します。
- 取得ファイル内容保存先に、変数「C.UserBlob」を設定します。

取得ファイル内容保存先	ファイルの内容が格納される変数名
送り先ファイル名保存先	監視したファイルが移動した後のフルパスが設定される変数名
送り元ファイル名保存先	監視したファイルが移動する前のフルパスが設定される変数名
引数XMLの場所を選択	上記要素を含む全パラメータがXMLとして保存される変数名



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- ツールボックスから「データマッパー」をフローエリアにDrag&Dropします。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- データマッパーを選択し、プロパティペインでステップ名を設定します。

The screenshot shows the Magic xpi Studio interface. On the left, the 'Toolbox' contains various components, with 'CSVtoMSSQL' highlighted in a red box. A callout bubble points to this component with the text 'データマッパーをダブルクリック (次頁)'. In the center, a workflow canvas shows a single step named 'CSVtoMSSQL'. On the right, the 'Properties' pane is open, showing the 'General' tab where the 'ステップ名' (Step Name) is set to 'CSVtoMSSQL'. Below the main canvas, a table lists the step's configuration details.

#	重大度	BP/名称	フロー	ステップ/トリガー	コントロール名	説明
				CSVtoMSSQL		

General	
ステップ名	CSVtoMSSQL
説明	
ステップID	2
コンポーネントID	11
コンポーネントタイプ	データマッパー
条件	
処理モード	リニア
完了を待つ	No
アドバンスド	
セーブポイント	No
コールバックフロー	No
マッパー	
エラー動作	Continue
DBトランザクション	
DBトランザクションレベル	Mapper



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- マッパ画面が表示されます。
- 送り元にFlat FileをDrag&Dropし、プロパティペインで以下のように設定します。

送り元タイプ	Variable
データ送り元エンコーディング	ANSI
変数名	C.UserBlob
名	CSV

変数一覧

#	名
1	C.HTTP.Body
2	C.UserBlob
3	C.UserXML

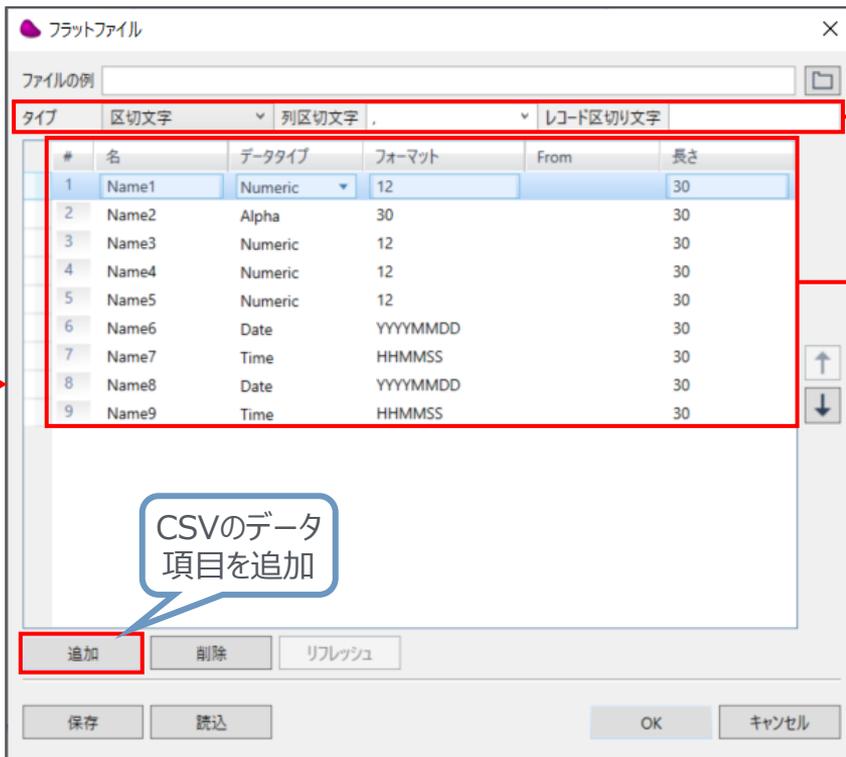
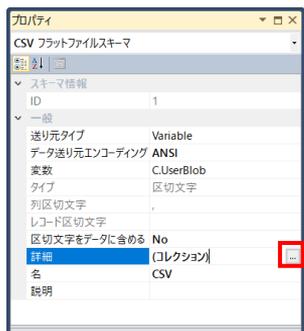
プロパティ

プロパティ	Variable
データ送り元エンコーディング	ANSI
変数	C.UserBlob
タイプ	区切文字
列区切文字	
レコード区切文字	
区切文字をデータに含める	No (コレクション)
詳細名	CSV
説明	

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【フラットファイルの詳細設定】

- 詳細の右側の[...]ボタンをクリックし、フラットファイルの詳細設定画面を表示します。



タイプ	区切文字	可変長
	ポジション	固定長
列区切文字	,	カンマ区切り
	SPACE	スペース区切り
	TAB	タブ区切り

名	CSVのデータ項目名
データタイプ	データの型
フォーマット	書式 (桁数)

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 送り先にDataBaseをDrag&Dropし、プロパティペインで以下のように設定します。

The screenshot shows the Magic xpi Studio interface. On the left, the 'ツールボックス' (Toolbox) contains various components, with 'DataBase' highlighted. A red arrow points from 'DataBase' to the '送り先' (Destination) field in the 'CSVtoMSSQL (CSV→DB書込)*' configuration window, where '商品マスタ' is selected. The 'プロパティ' (Properties) pane on the right shows the '商品マスタ Database Schema' with the following settings:

データベース定義	MSSQL
名	商品マスタ

The 'プロパティ' pane also shows the following settings:

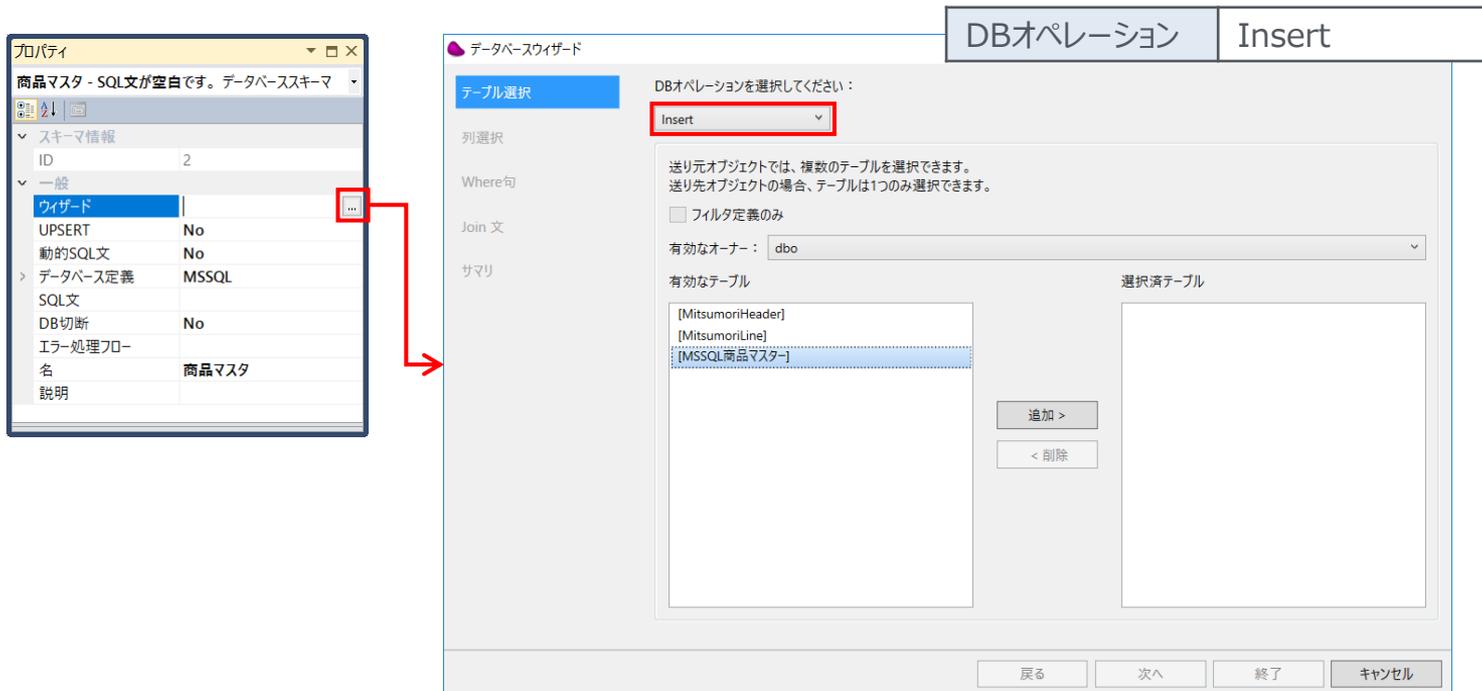
プロパティ	値
ウィザード	
SQL文	
簡易SQL文	No
データベース定義	MSSQL
DB切断	No
エラー処理フロー	
名	商品マスタ
説明	



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【データベースウィザード】

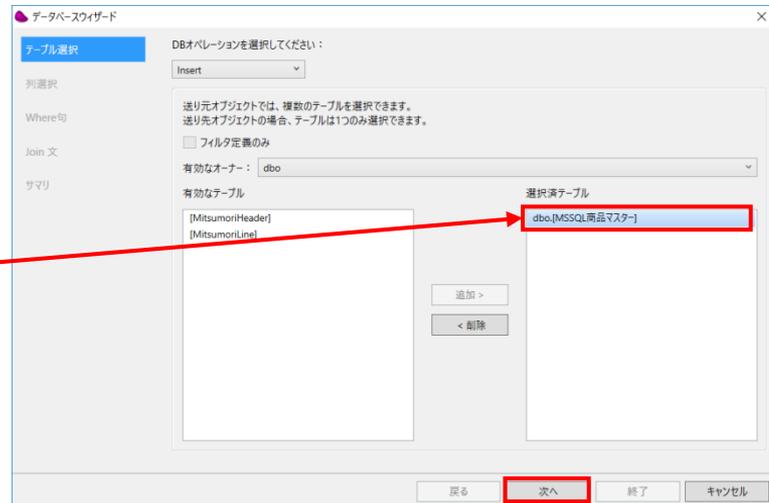
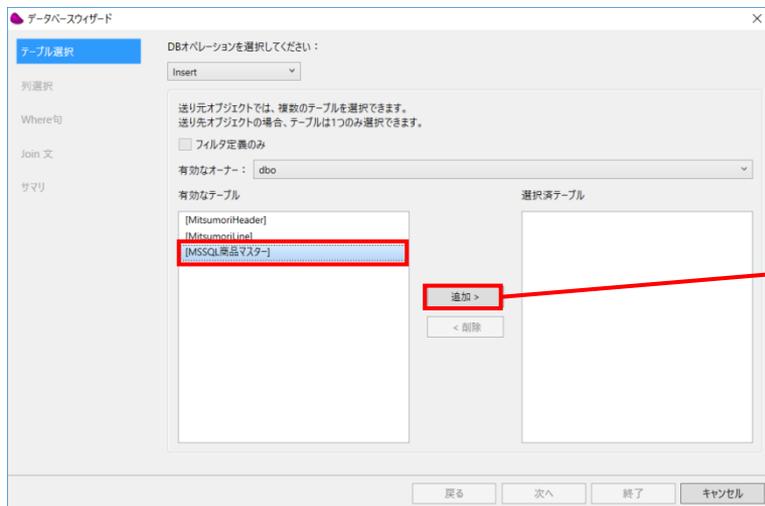
- ウィザードの右側の[...]ボタンをクリックし、データベースウィザード画面を開きます。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【テーブルの選択】

- 「MSSQL商品マスター」を選択し「追加」ボタンで追加し、「次へ」ボタンを押下します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【列の選択】

- 「MSSQL商品マスター」を選択し「追加」ボタンで追加し、「次へ」ボタンを押下します。

データベースウィザード

テーブル選択

列選択

Where句

Join文

サマリ

選択したテーブルのマッピングは、以下で選択した列を使用して作成されます。

フィールド表示順: Database Order

使用可能列

選択済列

dbo.[MSSQL商品マスター]

商品番号
商品名
販売価格
在庫数量
仕入先コード
作成日
作成時刻
更新日
更新時刻

追加 >

< 削除

データベースウィザード

テーブル選択

列選択

Where句

Join文

サマリ

選択したテーブルのマッピングは、以下で選択した列を使用して作成されます。

フィールド表示順: Database Order

使用可能列

選択済列

dbo.[MSSQL商品マスター]

商品番号
商品名
販売価格
在庫数量
仕入先コード
作成日
作成時刻
更新日
更新時刻

追加 >

< 削除

戻る 次へ 終了 キャンセル

テーブル名を選択した状態で[追加]ボタンを押すと、全項目が選択済みに移動します。
各項目を選択した状態で「追加」ボタンを押すと、その項目だけが選択済みに移動します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【SQL文の自動生成】

- 「終了」ボタンを押し、送り先の設定を完了します。

データベースウィザード

テーブル選択

列選択

Where句

Join文

サマリ

データベースウィザードで作成されたSQL文、SQL文を変更し、ウィザードの結果を上書きすることができます。

変換

SQL文

[INSERT INTO dbo.[MSSQL商品マスター] ([MSSQL商品マスター].商品番号,[MSSQL商品マスター].販売価格,[MSSQL商品マスター].在庫数量,[MSSQL商品マスター].仕入先コード,[MSSQL商品マスター].更新日,[MSSQL商品マスター].更新時刻)

変換済SQL文

[INSERT INTO dbo.[MSSQL商品マスター] ([MSSQL商品マスター].商品番号,[MSSQL商品マスター].販売価格,[MSSQL商品マスター].在庫数量,[MSSQL商品マスター].仕入先コード,[MSSQL商品マスター].作成日,[MSSQL商品マスター].作成時刻,[MSSQL商品マスター].更新日,[MSSQL商品マスター].更新時刻)

戻る 次へ 終了 キャンセル

「変換」にチェックをつけると、SQL文中の環境変数が、実際の値に置き換えられて「変換済SQL文」として表示されます。

例) WHERE dbo.[MSSQL商品マスター].商品名 = '%product_name%'
→ WHERE dbo.[MSSQL商品マスター].商品名 = 'デスクトップPC'



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【マッピング】

- マッパ画面で下図のようにマッピングを行います。

The screenshot shows the 'CSVtoMSSQL (CSV→DB書込)*' application. On the left, the '送り元' (Source) pane shows a tree view with 'CSV' expanded to 'Record', listing fields Name1 through Name9. On the right, the '送り先' (Destination) pane shows a tree view with '商品マスタ' expanded to 'dbo.MSSQL商品マスタ', listing fields like 'MSSQL商品マスタ-商品番号', 'MSSQL商品マスタ-商品名', etc. A red box highlights the 'Record' node in the source and the 'dbo.MSSQL商品マスタ' node in the destination. A red box also highlights the 'MSSQL商品マスタ-更新日' and 'MSSQL商品マスタ-更新時刻' fields in the destination. Blue callout boxes provide instructions: one points to the 'Record' node stating that mapping a child node automatically double-lines the parent; another points to the '更新日' and '更新時刻' fields stating they should not be mapped and instead have a formula in the '計算値' property; a third points to the '商品マスタ' node stating that right-clicking and selecting '全展開' expands the items.

送り元や送り先を右クリックし、「全展開」をクリックすると項目が展開されます。

子ノードを一つでもマッピングすると、自動的に親ノードが二重線で結ばれます

更新日と更新時刻はマッピングせず、「計算値」プロパティに式を設定します(P.32)

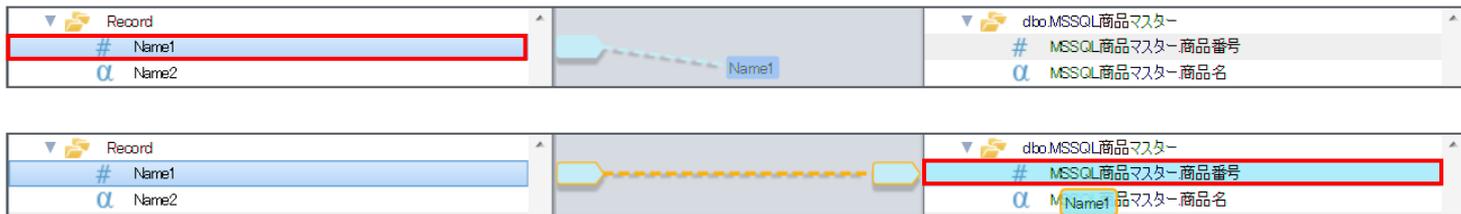
接続の仕方(P.30)
接続の削除の仕方(P.31)



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【接続の仕方】

- 送り元の項目をドラッグし、送り先の項目にドロップ



- 送り元の項目を右クリックし「接続」をクリック → 送り先の項目をクリック



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【接続の削除の仕方】

- 送り元の項目を右クリックし「接続を削除」をクリック

The screenshot shows two panels. The top panel shows a 'Record' table with three rows: '# Name1', 'α Name2', and 'α Name2'. The 'α Name2' row is selected, and a context menu is open with '接続を削除' (Delete connection) highlighted. A red box highlights the 'α Name2' row and the '接続を削除' option. A callout bubble points to the '接続を削除' option with the text 'その項目の接続のみ削除される' (Only the connection for this item is deleted). The bottom panel shows the same 'Record' table, but the 'α Name2' row is no longer selected, and the context menu is closed. The 'dbo.MSSQL商品マスター' table on the right shows three rows: '# MSSQL商品マスター 商品番号', 'α MSSQL商品マスター 商品名', and 'α MSSQL商品マスター 販売価格'.

- 送り元の親項目を右クリックし「全ての接続を削除」をクリック

The screenshot shows two panels. The top panel shows a 'Record' table with three rows: '# Name1', 'α Name2', and '# Name3'. The '# Name1' row is selected, and a context menu is open with '全ての接続を削除' (Delete all connections) highlighted. A red box highlights the '# Name1' row and the '全ての接続を削除' option. A callout bubble points to the '全ての接続を削除' option with the text '全ての接続が削除される' (All connections are deleted). The bottom panel shows the same 'Record' table, but the '# Name1' row is no longer selected, and the context menu is closed. The 'dbo.MSSQL商品マスター' table on the right shows three rows: '# MSSQL商品マスター 商品番号', 'α MSSQL商品マスター 商品名', and 'α MSSQL商品マスター 販売価格'.



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【式アシスターの関数ボタン】

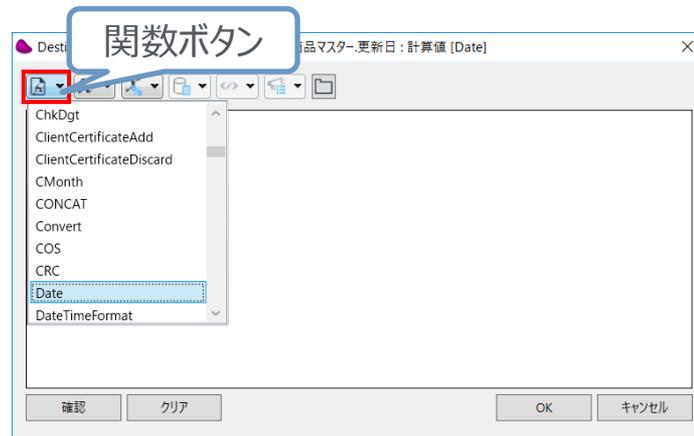
- ・ 式アシスターの関数ボタンを押すと、ドロップダウンリストに関数が表示されます。
- ・ 関数をダブルクリックすると、式の中に関数が挿入されます。

Date(): システム日付取得

DStr(日付, 書式): 日付型→文字型変換

Time(): システム時刻取得

TStr(時刻, 書式): 時刻型→文字型変換



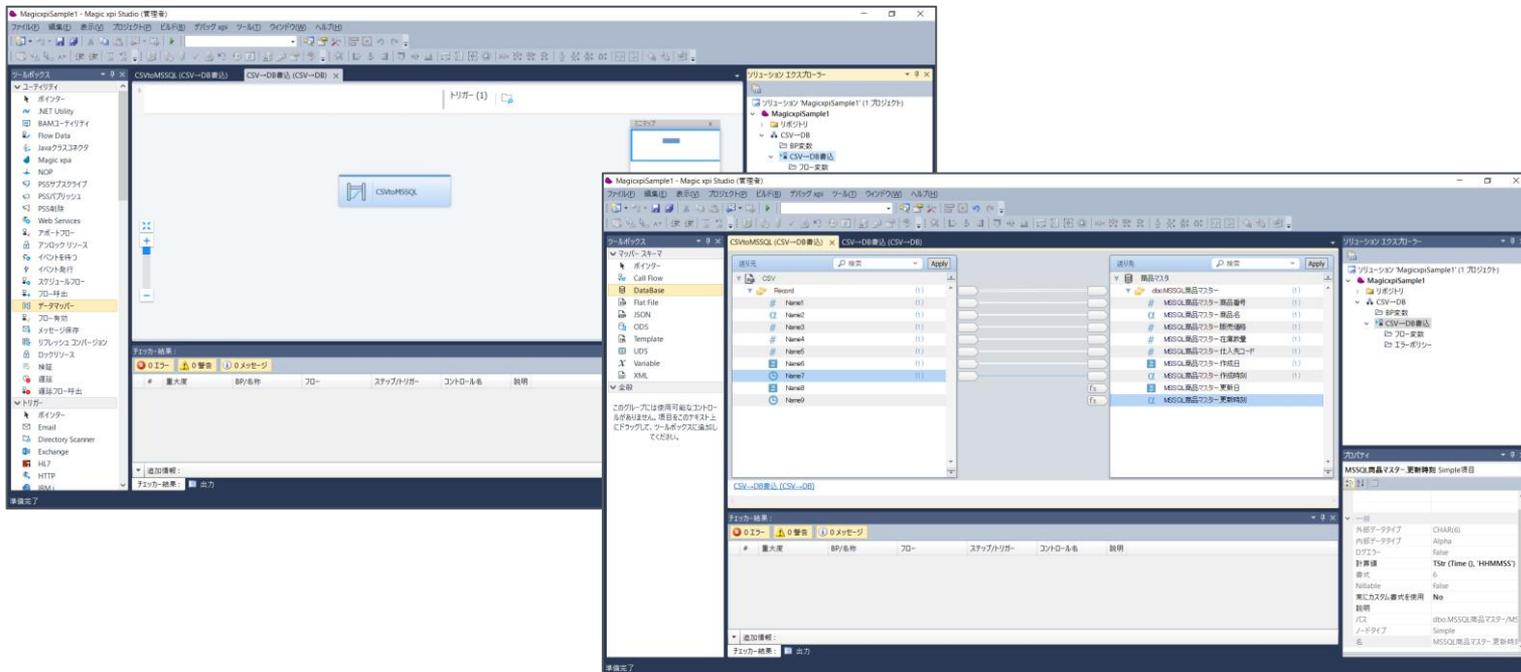
送り先 (MSSQLの商品マスタ)	「計算値」に設定する式
MSSQL商品マスター.更新日	Date()
MSSQL商品マスター.更新時刻	TStr(Time(), 'HHMMSS')



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 以上でフローの作成は終了です。



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4

プロジェクトビルド → Magic モニタ で実行



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

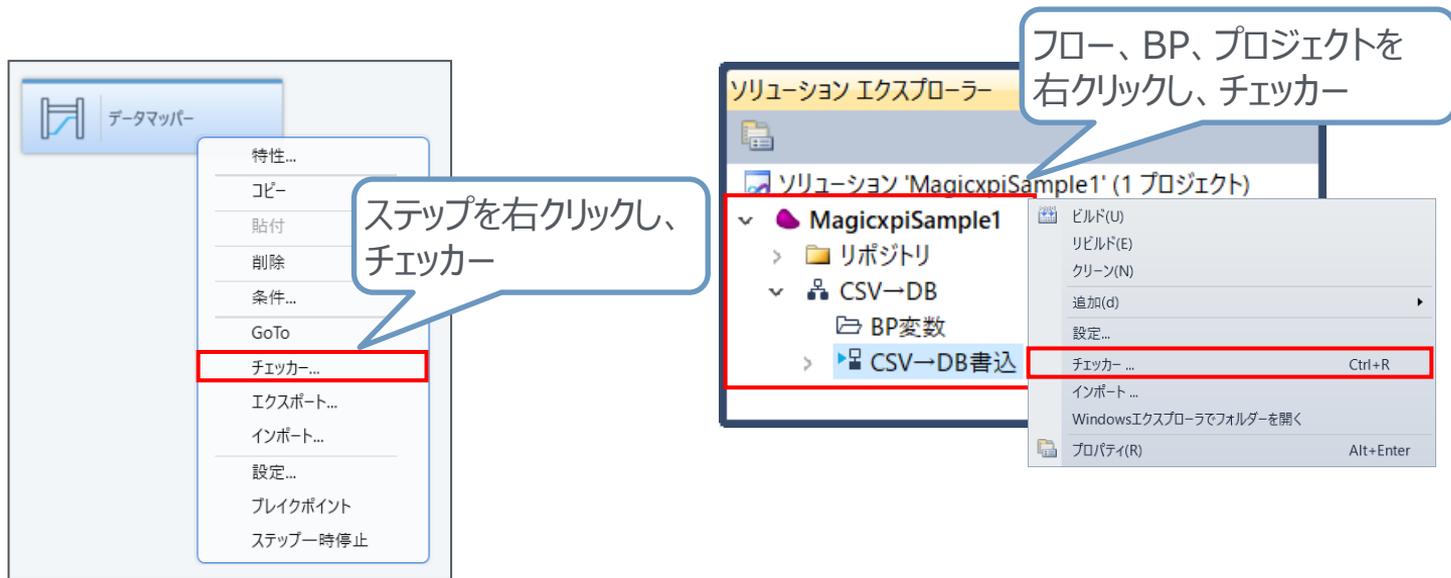
- ・ プロジェクトをビルドしてMagicモニタから実行し、「CSV→DB書込」フローの動作を確認しましょう。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【チェッカー】

- ・ ビルドを行う前に、チェッカーを使用して文法上のエラーがないか確認します。
- ・ チェッカーは、ステップ、フロー、BP、プロジェクトレベルで実行できます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【チェッカー結果の確認】

- ・ チェッカーの結果はチェッカー結果ペイン、ステータスバーで確認します。
- ・ エラーや警告の行をダブルクリックすると、該当箇所に移ります。

エラーや警告はチェッカー結果ペインに出力されます。

#	重大度	BP/名称	フロー	ステップトリガー	コントロール名	説明
1	Warning	CSV→DB	CSV→DB書込	CSVtoMSSQL		データマッパー接続タイプの不一致。

チェッカーは成功しました- 1 warnings and 0 messages found for current checker

エラーがない場合は、「チェッカーは成功しました」と表示されます。

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ビルド】

- 作成したプロジェクトをMagic xpi サーバで実行するために、プロジェクトをビルドして実行形式にします。ビルドメニューには以下の3種類があります。

ソリューションのビルド	修正したプロジェクトの差分をビルドします。
ソリューションのリビルド	プロジェクト全体を再ビルドします。
ソリューションのクリーン	プロジェクトフォルダ下の下記のファイルとフォルダを削除します。 <プロジェクト名>.ibp Tempフォルダ _optフォルダ mappergenerateフォルダ

- ビルドとリビルドを実行すると、最初にチェッカーが実行され、エラーがある場合にはビルドは実行されません。

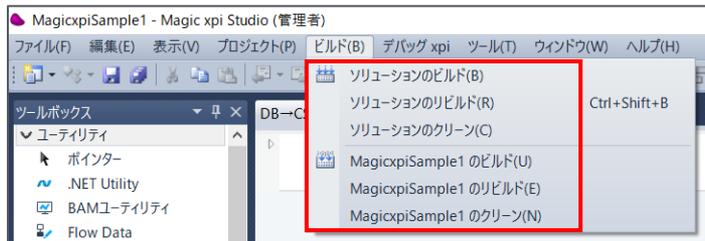


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ビルドの実行】

- ・ メニュー ＞ ビルドからリビルドを実行します。
- ・ Magic xpi のプロジェクトは、ソリューション1つにつき、プロジェクトが1つなので、ソリューションのビルドもプロジェクトのビルドも違いはありません。



【ビルド結果の確認】

- ・ ビルドの結果はステータスバーで確認します。

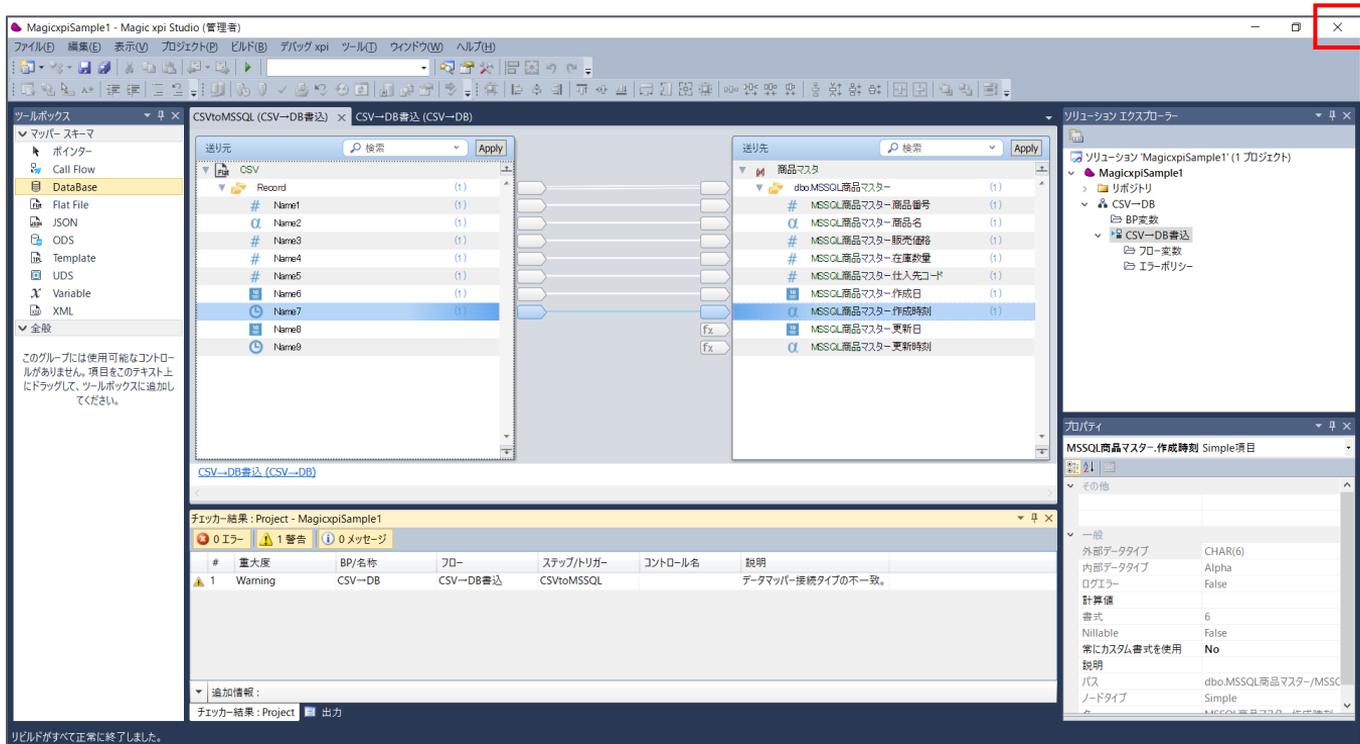
ビルドが正常に終了した旨のメッセージが表示されます。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【xpi スタジオの終了】

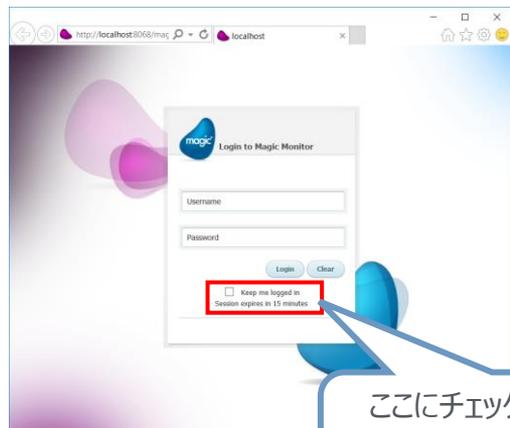
- ビルドが終了したら、「×」ボタンでxpi スタジオを閉じます。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

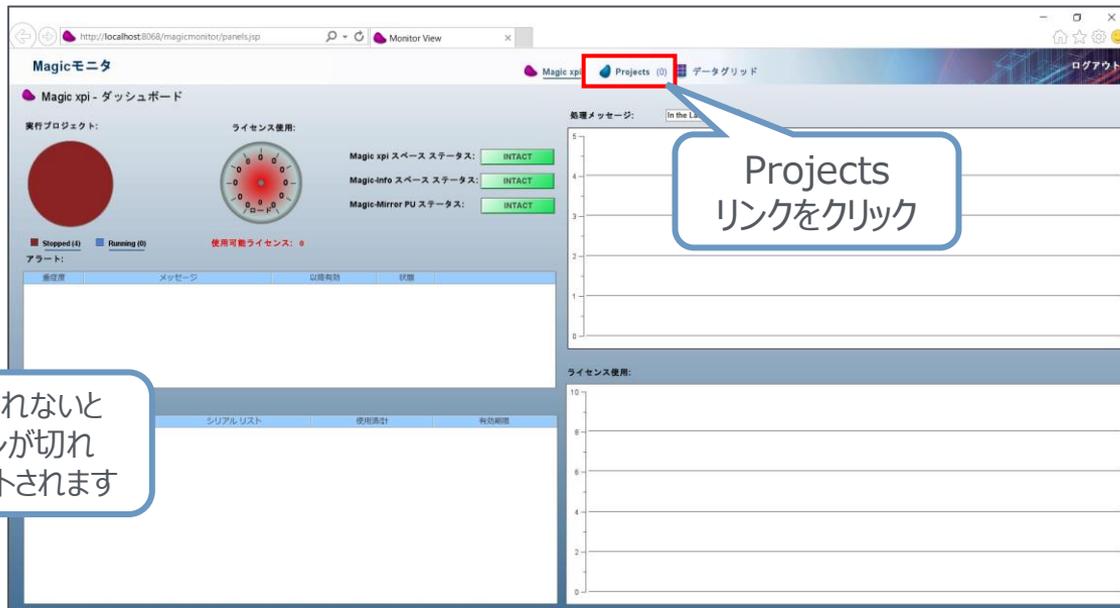
【Magic モニタの起動】

- ・ デスクトップのショートカットからMagic モニタを起動します。



ここにチェックを入れないと
15分でセッションが切れ
自動的にログアウトされます

ユーザ	admin
パスワード	changeit



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタでのプロジェクト実行】

- ビルドしたプロジェクトをMagic モニタで実行します。

プロジェクトが開始されると左端のアイコンが緑色になります。

①プロジェクト「MagicxpiSample1」を選択します。

②「開始」ボタンをクリックします。

※プロジェクトを選択すると背景色が濃い青色になります。背景色が薄い青色だと「開始」ボタンを押してもプロジェクトは起動しません。

開始	プロジェクトリスト	ステータス	警報
	MagicxpiSample1	STOPPED	0

↓

クリックして背景色が濃い青色となったことを確認して下さい。

開始	プロジェクトリスト	ステータス	警報
	MagicxpiSample1	STOPPED	0



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【データベースのデータ確認】

- データベースのデータを確認するにはManagement Studioを使用します。

The screenshot shows the SQL Server Enterprise Manager interface. On the left, the 'サーバーへの接続' (Connect to Server) dialog is open, showing the server name 'EC2AMAZ-Q80HKMBSQLEXPRESS' and the user 'sa' with password 'mgtr'. A red arrow points from this dialog to the server tree. In the server tree, the 'iBOLTTTest' database is selected, and a context menu is open with '上位1000行の選択' (Select Top 1000 Rows) highlighted. A blue callout box points to this menu item with the text: 'データベース：iBOLTTTest / テーブル：dbo.MSSQL商品マスター'. Another blue callout box points to the table 'dbo.MSSQL商品マスター' in the table grid, stating: 'MSSQL商品マスターにデータがないことを確認'. The table grid shows columns for '商品名', '販売価格', '在庫数', '仕入先コード', '作成日', '作成時刻', '更新日', and '更新時刻', but it is currently empty.

ユーザ	sa
パスワード	mgtr

データベース：iBOLTTTest
テーブル：dbo.MSSQL商品マスター

右クリックし、「上位1000行の選択」をクリック

MSSQL商品マスターにデータがないことを確認

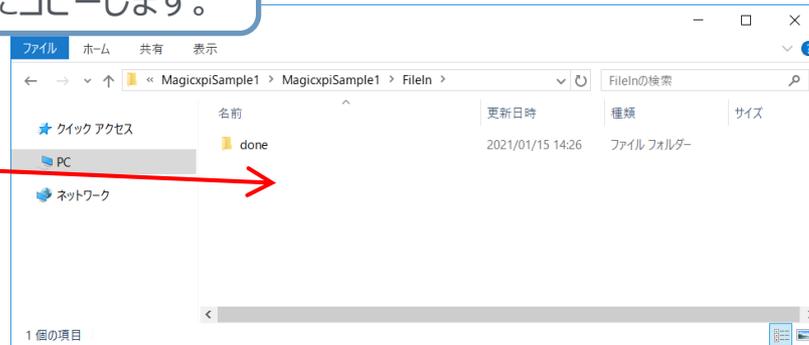


4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ファイルの配置】

- ・ CSVファイルを監視フォルダにコピーします。

プロジェクトフォルダ¥csv¥input1.csvを
プロジェクトフォルダ¥FileInフォルダにコピーします。

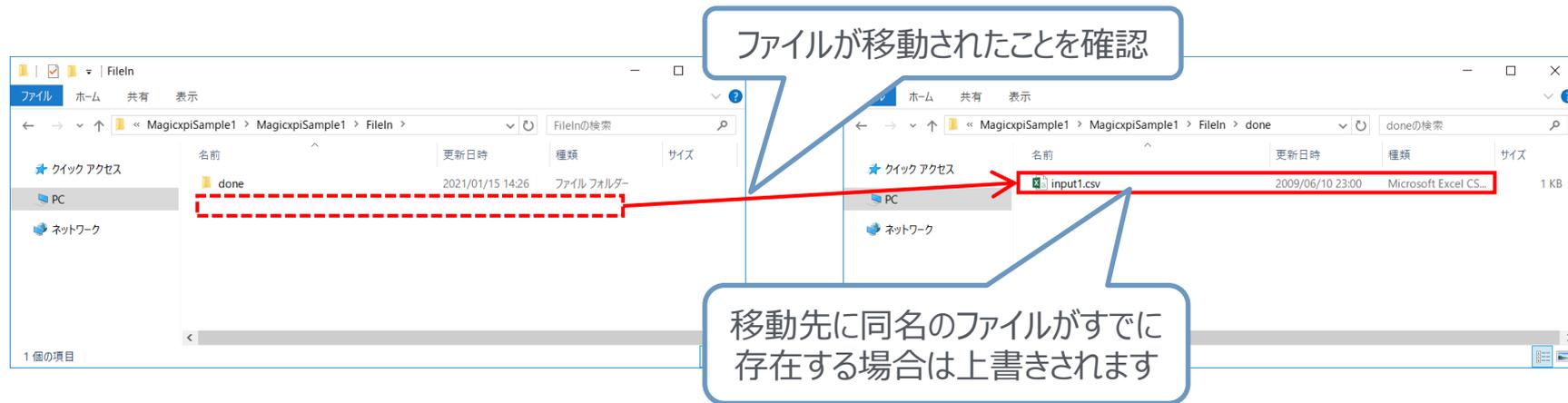


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ファイルの確認】

- ・ ファイルが移動されたことを確認します。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタの確認】

- 「アクティビティログ」タブでフローの実行状況を確認します。

アクティビティログをクリック

Date & Time	メッセージタイプ	メッセージ文字列	ステップ	FSID	Elab
11/15/2021 14:45:26.217	File completed	Execution time: 00:00:00.473		1	
11/15/2021 14:45:28.207	Flow component completed	Execution Time: 00:00:00.381	CSVtoMSSQL	1	
11/15/2021 14:45:27.833	Flow component started	Linear	CSVtoMSSQL	1	
11/15/2021 14:45:27.747	Flow started			1	
11/15/2021 14:44:56.407	Trigger Started		Directory Scanner	0	
11/15/2021 14:44:54.727	Server started	Instance number 3. The server was state		0	

アクティビティログが表示されていることを確認します



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【データの確認】

- DBテーブルにレコードが追加されたことを確認します。

SQLQuery1.sql - EC2AMAZ-QBOHKMBYSQLEXPRESS.iBOLTest (sa (59)) - Microsoft SQL Server Management Studio (管理者)

```
SELECT TOP 1000 [商品番号]  
FROM [iBOLTest].[dbo].[MSSQL商品マスター]
```

商品番号	商品名	販売価格	在庫数量	仕入先コード	作成日	作成時刻	更新日	更新時刻
900001	商品名1	100.00000	10	100	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900002	商品名2	200.00000	20	200	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900003	商品名3	300.00000	30	300	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900004	商品名4	400.00000	40	400	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900005	商品名5	500.00000	50	500	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900006	商品名6	600.00000	60	600	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900007	商品名7	700.00000	70	700	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900008	商品名8	800.00000	80	800	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900009	商品名9	900.00000	90	900	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109
900010	商品名10	1000.00000	1000	1000	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2021-01-15 00:00:00.000	140109

商品マスターテーブルにレコードが追加された

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタでのプロジェクト停止】

- プロジェクトを選択し、「停止」ボタンを押します。

The image shows a sequence of three screenshots from the Magic Monitor interface. The first screenshot shows a project named 'Magic:piSample1' in a 'RUNNING' state. A red box highlights the '停止' (Stop) button in the bottom control panel. A red arrow points from this button to a 'Stop Param...' dialog box. The dialog box has a 'タイムアウト(秒):' (Timeout in seconds) field with the value '60' and 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. A red box highlights the 'OK' button, with a red arrow pointing to the second screenshot. The second screenshot shows the same project now in a 'STOPPED' state. A red box highlights the '再起動' (Restart) button in the bottom control panel. A red arrow points from this button to the third screenshot. The third screenshot shows the project in a 'STOPPED' state, with the '再起動' button highlighted.

【タイムアウト値の設定】
「OK」ボタンを押した瞬間、全てのトリガが停止し、プロジェクトは新しいリクエストを受け付けなくなりますが、すでに処理中のリクエストについては、タイムアウト値に達するまで処理が継続されます。
※通常はアクティビティログで処理が完了していることを確認してからプロジェクトを停止してください。
※即時停止したい場合は最低値「1」を指定します。